



全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

<http://www.shijuku.net>

第10号（平成17年4月号）



やまぶきや 曲がり来たれば 山一つ

私塾ネット 副理事長 梶原 賢治



学力低下を考える

学力低下の裏表

「ゆとり」の見直し

高嶋 哲夫先生

(作家・全国学習塾協同組合理事)

今年四月、来年春から使われる中学教科書の検定結果が発表された。数学では二次方程式の解の公式や平方根表、理科では元素周期表やイオン、遺伝の法則などが復活している。ただし、「発展学習」としてだ。

昨年暮れ、二つの国際的な子どもの学力試験結果が相次いで発表された。一つは経済協力開発機構(OECD)が行なった「生徒の学習到達度調査」。もう一つは、国際教育到達度評価学会(IEA)が実施した「国際数学・理科教育動向調査」である。

「生徒の学習到達度調査」の結果は、日本は四分野のうち、「総合読解力」が十四位(八位)、「数学的応用力」が六位(一位)、「科学的応用力」が二位(二位)、今年から行なわれた「問題解決能力」は四位だった。

また、「国際数学・理科教育動向調査」の結果は、小学四年理科が三位(二位)、算数が三位(三位)。中学二年理科が六位(四位)、数学が五位(五位)である。括弧内は前回の順位だ。

前回の結果と比べると、いずれも順位を下けているか同じである。文科省も「日本の学力は最上位とはいえない」と世界のトップレベルからの脱落を認めている。中でも、「総合読解力」については、OECDの平均並みに落ちたことを危惧している。

「文科省は、子どもの学力低下を認めたがらなかった。ゆとり教育のせいじゃないかと言われるのが嫌だということだった。私はゆとり教育が低下の原因の一つかも知れないと言っている。また、勉強する動機が弱くなったことを憂えている」

これは、これらの試験結果に対する、中山文部科学大臣の言葉である。

子どもたちの学力低下の原因は、一つは「ゆとり教育」、もう一つは「勉強する動機の低下」だとしている。この指摘は正しい。

また、中山文科相はこうも言っている。

「学力が低下傾向にあることをはっきり認識すべきだ。日本が停滞している間に中国など近隣諸国が追い上げ、日本は東洋の老いた小さな国になってしまう」

だが文科省はこうした結果に対しても、「日本の学力は最上位とはいえない」としながらも、しぶとく、「結果に一喜一憂すべきではない」という考え方を示している。

しかし、中山文科相は、義務教育改革推進本部を設置して、全国学力テストの導入の検討を指示し、中央教育審議会にも学習指導要領見直しを含め、義務教育の包括的な見直しを諮問している。この審議会の答申は今後の教育行政に大きな影響を与える。

ここで重要なのは、この審議会のメンバーが、ほとんどが大学教授、企業幹部、文化人であることだ。

審議会の委員は大臣が任命するが、大筋は文科省の人選と言ってよいだろう。その結果、「生きる力」、はたまた「自分さがしの旅」などという抽象的で訳の分からない言葉が出てくる文科省の方針にそった答申となる。

とにかく、審議会の委員は現実の子どもや教師、教育現場を知らない、普段子どもの教育など考えたことのないような人ばかりだ。こういった人たちの思いつきや、自分たちの特殊で、おかしな経験で日本の教育の将来が決まってしまうとお寒い限りだ。今後もこのようなやり方が継承される限り、本当の改革など行われるとは思えない。

文科省が本気で「学力低下」を認め、「ゆとり教育」の見直しを考えるなら、現場をよく知る現役の教師、校長、そして実質、日本の教育レベルを支えている塾や予備校の関係者を複数入れるべきだろう。

大切な学ぶ意欲

しかし、小・中学生の基礎学力低下が明らかになったと言っても、まだ世界の一桁には入っている。問題なのは中山文科相が指摘するように、「勉強する動機の低下」だろう。このことは、今後も下がり続ける可能性を示唆している。

TIMSSでも、上位の国の生徒のほとんどが正解率を上げている問題で、日本では小中学校ともに理科、算数、数学で下げている。これは何を意味しているか。できない子が増えているのだ。

明治維新以来、日本人の特徴として勤勉、努力が上げられてきた。ずば抜けた天才は少なくとも、平均的なレベルが高く、教育水準は常に世界のトップレベルにあった。

近年、その傾向に異変が出てきていることは確かである。「学ぼうとする積極性」つまり、「勉強する動機の低下」が起こっている。その結果、「できる子」と「できない子」の差が広がり、真ん中の層が減っている。二極化が進み、「できない子」が足を引っ張り平均を下げているのだ。国際テストの成績低下は多くはそのせいだろう。

そしてその二極化は、学校外の学習がどれだけできるかで決まる傾向がある。子どもを塾や予備校にかける親の経済的余裕と意識である。なんとも淋しい限りであるが、その経済、意識格差が親から子に持ち越される。

そして、「ゆとり」という名の「ゆるみ」は、「学力低下」ばかりでなく、「不登校」「いじめ」「学級崩壊」「ニート」「フリーター」など、現在の公教育、社会の抱える問題にも影響を及ぼしているのは確かだ。

基礎的学力の向上とよい意味での競争は、これらの問題解決にも少なからずつながるに違いない。

小学生はバカじゃない

さて、建前はこれくらいにして本音を言わせてもらう。日本の子どもたちの学力は本当に落ちたのだろうか。

二月初旬、僕のところには一通の封筒が送られてくる。中に入っているのは私立中学の入試問題である。それからほぼ一週間後の休日、一日缶詰めになって解答と解説を書き、傾向の分析を行わなければならない。各学校の一教科に対して、二名から三名で各自の解答を照らし合わせながら知恵を絞る。僕は理科を担当している。

これを読んでいる皆さんは、当然私立中学の入試問題を知っているだろう。

難関校ともなれば大学入試とは言わないまでも、高校入試よりはるかに難しい問題が出ている。算数、理科など並みの文系大学生には解けない。おそらく、普通の小学校教師にもおいそれと解けるとは思わない。やり始めて十年近くなるが、まさに、一年に一日、本気で脳みそを使う日である。僕たちは知識と経験でなんとか答えにたどり着くことができる。しかし、直感的に答えを出してしまう小学生もいるのだ。こういう子どもの存在は、まさに塾のおかげなのだ。だが、憂うべきはこうした優れた子どもたちも中学、高校と進むうちに、よくできる普通の子どもになってしまうことだ。「学力低下」の問題と共に、こういう子どもたちの才能を伸ばす方法も本気で考えるべきだろう。

それはさておき、これでどうして世間は学力低下と騒ぐのか。統計の魔力である。すでに述べたように、日本の子どもたちは完全に「落ちこぼれ」と「浮きこぼれ」に二極化している。その結果、平均としての学力は落ちている。

国際テストの順位を上げるのは簡単である。下位の子どもたちのレベルを上げればいい。八十点を九十点に上げるにはかなりの努力が必要だ。しかし三十点を六十点に上げるのは比較的簡単だ。塾で実際に子どもたちに接している先生にはよく分かることと思う。

さらに、本物の学力を付けるには、単に時間数を増やせばよいというわけではない。これも、塾で教

えた経験者であれば十分に分かっていると思う。僕はアメリカにいたころ、日本語学校で教えていたことがある。対象は海外駐在員の子どもたちで、日本の教科書を使い、土曜日一日で一週間分の内容を教える。たしかに、彼らは普段はアメリカの学校に通い、基礎学力はある。もちろん宿題も出して、家での学習が必要であるが、十分可能であった。

ただし、中程度かそれ以下の子どもたちは、単に勉強時間を増やすだけで成績は上がる。しかし、それよりも重要なのは、生徒のやる気と教師の能力と熱意である。そういう根本的なことを文科省のお役人はまったく分かってない。

生徒が百人いても同じ目的意識があれば、授業は成り立つ。いたずらに少人数学級にこだわることもない。

「学力低下」のいちばんの原因は、現場を知らない人たちが頭の中だけで将来の方針を決め、それを現場に押し付ける日本の教育行政のシステムだろう。

かなり支離滅裂なことを書いたが、僕の言いたいことは塾の仲間たちは十分に理解してくれると思う。

高嶋哲夫先生プロフィール

1949年7月7日 岡山県、玉野市生まれ。慶應義塾大学工学部大学院修士課程修了。日本原子力研究所研究員を経て、カリフォルニア大学に留学。1979年日本原子力学会学会技術賞受賞。



17年1月・塾に役立つ情報展にて

神戸で学習塾を経営の経験もあり、全国学習塾協同組合(AJC)の理事を務める。現在「月刊私塾界」に『高嶋哲夫の塾への応援歌』を連載中。

1990年「帰国」で第24回北日本文学賞受賞。

1994年「メルトダウン」で第一回小説現代推理新人賞受賞。

1999年第16回サントリーミステリー大賞・読者賞 ダブル受賞 受賞作品『イントゥルーダー』

著書「トルーマン・レター」「ペトロバクテリアを追い！」「冥府の虜 プルトーン」「フレンズ シックステーション」「塾を学校に」「ミッドナイト イーグル」「ダーティー・ユー」「スピカ-原発占拠-」「イントゥルーダー」「アメリカの学校生活」「カルフォルニアのあかねちゃん」「命の遺伝子」「メルトダウン」「虚構金融」「M8」など。

最新刊は 2004年12月9日(木)発売[流砂](光文社文庫) 定価800円(税込み)、「アフガンの風」を文庫化。

学力低下に関する各エリアのご意見

四国エリア

楠山ゼミナール 楠山敬志

就任直後の大臣発言があり、とかくメディアに取り上げられしばらく時間がたったこの問題について、各界の方々がいろんな分析をなさっておられる。京大の西村先生を筆頭に、最近では東大でもこの問題について盛んにシンポジウムがなされているのは、すでにご案内のとおりである。

ここでは、小生なりの見方と歴史の中での位置づけ、今後の課題等について議論することをお許しいただきたい次第である。その前に、てまえどもの地方の現状を簡単にご報告いたしたい。当然に「低下」は顕著に進んでいるといえる。

今年のセンター試験の結果は、平均点で東京都に比べ小生の地元徳島は80点マイナス、香川より30点マイナスのように聞いている。低学年の子どもの計算力さえあやしくなってきたのが現状である。

よく識者の間でいわれる「犯人捜し」の無駄は一面真理であると考えられる。しかし、今後の課題として「学習効果」を發揮させる目的で若干の原因についての考察は有益ではなからうか。

約30年に及ぶ「ゆとり教育」の中で、特に今回の新指導要領の改訂が学力低下の決定的なトリガーにはなったが、その下地は十分にできていたのではないかと小生は考えている。これもよく指摘されているが、発展途上段階や成長過程にある国の状況とは違った悩みが潜在していたと考えられる。

すなわち「学校へ行く」「勉強すること」がきらきらしている時代を、わが国は数十年前に通過したという仮説である。成長段階の違いによる価値観の変化が起こるのはきわめて自然といえる。

これを許容でき、多様化した社会の実現は実に納得のいく目標ではある。しかし、日本の社会は残念ながらそこまで進化していないといえる。労働マーケットでの、女子総合職や高齢者、身障者の受け入れ態勢にもまだまだ課題をかかえたままで走っているのが現状である。

一方で、コスト面で比較優位性をもった中国、インド、ロシア等の技術者に、日米のハイテク部門の職を持っていかれるという時代背景が同時進行している悲劇も存在する。

なんとタイミングの悪い「ゆとり教育」であったかが悔やまれてならない。どこの大学でも聞いてみても、留学生のほうがよくできるという。もはや、「競争がいいか悪いか」より「あるかないか」の現実を避けえない事実を目をむけるべきであろう。

「急速に」学力低下が近年進行したもうひとつの原因は、ゆとり教育の他にインターネット社会の到来が背景から促進させた側面が否定できない。子ど

もがゲームに熱中した時代を20年程度経過したあとにネット社会の整備が進行したと見ていいのではあるまいか。

数年前と比較してネットの環境は格段に整備され、今後もとどまることは考えにくい。先ごろ社会現象となった企業買収事件をメディアは大きくとらえて報道している。昨年起こった長崎での事件もネットが話題になったのは記憶に新しい。

メディアは取り上げないが、ネットはごく普通の学齢期にある子どもたちの生活にも大きく影響を及ぼし、これもおそらくはとどまるどころがないと予想するに一般性を失わないのではあるまいか。オンラインゲームに朝方まで熱中している子供にとって、従来の社会の生活リズムが合わないのは自明であろう。

しからは、どういう指導をしていくのか。たとえば、こういう従来の学校の規範にあてはまらないことが、逆に時間的には国際社会でうまくマッチするではないか。為替や株、商品の市場は小生が寝るころにNYの株式やナスダックが寄り付きの値を示し、シカゴの穀物マーケットが開く。極論をあえて言えば、学校もフレックスタイムによる3交代で対応するのかという議論もそのうちメジャーになると予想している。ひょっとして、ゲーマーと呼ばれる世代は既に40歳代におよんでいることを考えれば、それに適したリズムの生徒と教師がいると考えられはしないであろうか。

不登校やひきこもりも含めて、時代の変化の速さに教育制度が追いつかない欠点を内蔵したままで従来どおり走るの、きわめて危険かつあまりにも愚かである。

60年前のこの国の大失敗は、あたかも「神の見えざる手」に導かれたごとく戦争に国費と人命を投入したことは歴史の事実である。この数十年の文部行政は、それにも匹敵するあやまちと小生はとらえている。

つい最近までの監督官庁の「学力の定義」に関する禅問答のごとき言い訳は、まさに60年前の失敗に似ている。あなた方の言っている「学力」とは従来言っていた「学力」であり、それと「自ら考える力」「自ら表現する力」等を含めて「学力」と定義する。よって「定義」がずれており、この定義による「学力低下」は起こっていないという、まさに禅問答を繰り返していた。

誰も望まず、誰も制止できないまま「民主主義的手続き」を踏んで一方へ流されていくさまはそっくり「いつかきた道」ではないか。「絶対まちがったことはない」官僚の思考と結果責任のないシステムはお国への信頼を失望に転化させるに十分であろう。

まさに学力低下以上に問題であるのは、この風潮が一般化した後にくるモラルハザードであることに

気づくことができぬ現状と断言できる。

学校現場では、センター試験（旧共通1次試験を含む）を受験した世代が、教員の中核をなしている。彼らのなかには「学力低下」を黒板の前で演じる者も相当数現れ始めている。人材の養成には数十年の歳月を要し、事態は深刻である。

情報と経済力を持った家庭の子どもが成功し、そうではない子どものチャンスが閉ざされている社会は不健全である。確実に貧富の差の再生産が不可避かつ不可逆的に進行しているのではあるまいか。

小生は最近「地方に住むことのリスク」と呼んでいるこの現象は、あまりにも高い授業料についたといえる。

関東エリア 聖学舎 大住 明敬

2007年から日本の人口は減少します。少子化の波はさらに拍車がかかります。2月にはあの両国予備校が閉鎖のニュースもありました。塾業界淘汰の時代です。きちんと対応しないと生き残れない。私たち小さな学び舎はどう生きのびるのか。日々このことが頭から離れない毎日です。

8年前に開塾したとき、個人塾は生徒と一緒にあってぶつかり合い、これでもかと問題を解かせ、成績向上が図れる理想の場と考えていました。当初、何も宣伝しなくても2年目には50名をこえ本当に教えることの面白さに浸っていました。しかし、大手塾が駅前にできた4年目から下降気味となり、6年目には20名にまで落ち込みました。

何か自分に足りないところがある。それは何かを求める日々が続きます。私塾ネットに参加したのもそんなときです。成功している人たちの話を聞き、色々な塾を見学するなかで、自分に経営感覚が不足していると思うようになりました。もっと聖学舎を外へアピールすることの大切さに気づきました。今はその気づきを実践する毎日です。小さな塾だが個別面談だけでなく、説明会・父母会を多くする。

自筆の手紙を塾生や保護者に数多く出し塾をいつも意識してもらう。印刷機によるチラシ作りでコストを下げる代わりに、毎月地域に啓蒙の意味もこめて新聞折込を入れるなどコツコツ行っています。（毎日時間が足りません。朝9時から夜11時まで働いてもです）

今年のスタートである4月、40名です。目標100名にはまだまだです。これからもネットの皆さんのアドバイスを受けながら、頑張りたいです。

東北エリア 志学塾 畑山 篤

「難しいよ！」「わからないよ！」「習ってないよ！」

「落ちこぼれ」という言葉を耳にしなくなったような気がします。「ゆとり教育」がマスコミに登場し、幅を利かせ始めた頃からでしょうか。しかし、

その「ゆとり教育」も最近はずっかり「学力低下」に主役の座を明け渡してしまいました。では「落ちこぼれ」の子供がいなくなり「学力低下」の子供が現れたのでしょうか……。もちろん昔に比べ子供たちの学力は低下しているとは思いますが、私は別な角度で危機感を感じています。

先日、ある中1の男子が英語のテキストの同じ問題に何度もつまづいていたので、私の方から声をかけてみました。「何がそんなに難しいの？」と。彼は「わからない。」とぼそっと答えました。some～を使った肯定文を疑問文にかえる問題だったので、答えはany～だったのですが、彼は繰り返す度にmany～と書いてしまうのでした。なぜ、「たくさんの」を表すmanyを書いてしまうのか、その原因をつかむまで少し時間が必要でした。

私達の世代は「否定文か疑問文ではsomeの代わりにanyを…。しかし、肯定の答えを期待しているときの疑問文にはanyにかえてsomeを…。例えば『もう少しケーキはいかが。』だったら Would you like some cake? となる。」と教えられたと思います。私の頭にある英文法では「いくらかの」を表すのはsome（肯定文）とany（否定文・疑問文）。「たくさんの」を表すのはmany（数）とmuch（量）です。

私は近くに居合わせた中3生たちも含めいくつかの質問をしてみました。「(私)manyの意味は？(塾生)いくつかです。」「(私)muchの意味は？(塾生)非常にです。」「(私)??？」中3受験生までもこのように答えるのです。中1生だけの現象ではなかったことに気づかされました。

八戸市内の英語の教科書では、中1で習うmanyは「How many ~ ? いくつ～ですか。」のみ。much は「much（副詞）たいへん・たいそう / very much 非常に・とても / How much ~ ? ~はいくらですか。」のみ。専門外の英語とはいえ、教科書削減以来「削減された内容だけ」をチェックしていた私の不勉強でした。私達の世代とは違い、コミュニケーション(いわゆる英会話)重視の教科書で習う今の子供たちには、manyとmuchは「数量」のイメージがなくなってしまったのです。

このように教科書の内容が削減され、どんなに薄くなっても、子供たち一人ひとりの「難しいよ！」「わからないよ！」という声はなくなっ

のです。「学力低下」と一括りで論じる前に子供たちが日々直面する「難しさ」を理解することが大切なのではないでしょうか。

そう言えば10年以上前、子供たちに英語を教えているときこんなことがありました。「He is kind .」をある男子に訳させたらkindを習っていなかったため「彼はキンドさんです。」と大きな声で答えたのです。周りは誰も笑わず一所懸命未知の単語kindに悩んでいました。私は必死で笑いをこらえ、kindの説明をしました。その直後教室中から「そんなの習ってないよ！」とブーイングが。因みに現在の中1の教科書には「kind(名詞)種類」のみ。中2の教科書に「kind(形容詞)親切な」とあります。つまり、中1生には「a kind of ~」は答えられても「彼は親切です。」を英語で表現することは難しいわけです。

専門外の英語を引き合いに「学力低下」について論じるつもりはありません。ただ16年間学習塾という現場で子供たちと接してきて「これは危ない」と感じるのは未知の単語に対して「そんなの習ってないよ！」と発するエネルギーがどこかへ消えてしまったことです。「やる気低下」こそ大きな問題とすべきです。意欲をなくした子供たちは「落ちこぼれ」より悲惨です。今日も元気一杯の子供たちと「学力向上」を目指します。

中部エリア チャレンジ学院 松本紀行

「日頃考えてることでいいから」という言葉にあまえて、筆をとらせて頂きました。過日、日本の学力が世界各国に比べて低下していることが話題になりました。長野県教育委員会でも、学力実態調査を行った結果、中学生の数学に学力低下傾向が認められることを発表したばかりです。例えば、「円錐の体積を求める問題」の正答率が36%に低下し、中2生の「 $6 - 10 \div (-5/2)$ 」は昨年の57%から50%へ下がっています。30年以上も数学を指導してきた私にとって、これ程、心の痛むものはありません。中学生が二次関数の最大値、最小値を平気で解いていた時代がなつかしく思えてなりません。学校教育を動かしている偉い方々が教科書を平均11%厚くするとして、「脱ゆとり教育」とおっしゃる前に、今、何がこういった事態の原因になっているかをハッキリ公表した方が良いのではないかと、

私は考えています。

長野県松本市には国宝級の開智小学校が残って居ります。明治6年、市民の寄付金が沢山集まったそうです。文明開化を推進する上で重要な小学校だったと言えます。明治33年、この学校出身の澤柳政太郎という方が、実に教育熱心な方で、文部省トップに進言して、第3次小学校令なるものを制定致しました。「誰にも等しく教育を」をモットーに、当時、驚異的とも言える成果を上げたそうです。なんと、就学率90%を超えたと聞いています。「国語」という名の授業が生まれ、運動場設置が義務づけられたといえますから、近代日本教育の本当の原点はここからではなかったかと思われま

す。今までの「注入授業と試験制度」を廃止して、今言われている「ゆとり教育(当時は自由教育)」が誕生したわけです。この結果、のびのびした授業が行われるようになった反面、学力低下が懸念され始めました。明治40年ごろだったでしょうか、20才の男子の学力を調査した結果、小学生レベルを答えられない者が多く出てしまいました。それ見たことかと、再び試験制度が復活されました。昭和に入り画一的な教育の中で戦争に突入し敗戦。GHQの指示で日本の教育を調査させた教育使節団調書の中には、「試験第一主義を改めよ」と書かれてあります。その後の日本の学校教育の改善が、「ゆとり教育」と「学力向上教育」の狭間で揺れてきました。この揺れの中で、私たちは何をなすべきなのでしょう

か。思いますに、数学嫌い、勉強嫌いが増えています。公立学校の先生自身が「入試は易くなるから、君たちは勉強しなくてもいいかも」と、とんでもないことをおっしゃっていると、生徒たちから聞きました。私は、このことが学力低下問題を通りこして、「学問」そのものの否定につながる風潮を懸念しています。「学ぶことは楽しいこと」このことを指導する者が(特に学校の先生が)しっかりと実行しなくては・・・と。生意気言うようで恐縮ですが、塾の魂を持った学校ばかりだったら、もっと生き生きした子供たちが沢山育っていると思われま

でしたが、皆さんとお話できる機会を楽しみにしております。

4月5日付けの朝日新聞の記事より

ゆとり教育見直し、子は複雑 小中高校生の意見

国際学力調査で日本の順位が下がってから、子どもの学力低下を心配し、「ゆとり教育」の見直しを求める声が高まっている。当の子どもたちはどう考えているのか。小中高校生201人に意見を書いてもらった。

対象は、埼玉県公立小学校6年生33人、東京都私立小学校5年生36人、都内の公立中学校3年生92人、神奈川県立高校1年生40人。学力低下が話題になっていることをどう思うか 完全週5日制や学習内容が3割削減された学習指導要領をどう考えるか などをきいた。中高校生には、本紙昨年12月18日付の中山文部科学相インタビュー記事を読んだうえで答えてもらった。中山文科相は世界のトップを目指す決意を述べ、「今までの教育には競い合う心が欠けていた」として、全国学力調査の必要を訴えている。〈小〉は小学生、〈中〉は中学生、〈高〉は高校生。

あまり宿題増やささないで

「ゆとり教育」見直し、どう思う？

〈小〉見直しに賛成。だって、塾に行く子と行かない子と差がでるじゃん！

〈小〉国際学力調査の順位が下がったのはくやしいけど、あまり宿題を増やしてほしくないです。

〈小〉1日の授業時間を減らしても短い時間に真剣にやればいいと思います。

〈小〉むずかしくすると勉強についていけないから今のままでいいと思う。

〈中〉先生が「時間がない」と言うのを耳にします。黒板の文字をノートに写している間に説明され、理解できないまま終わってしまう。先生に「ゆとり」がなければ、生徒は「ゆとり」を持つことができません。授業時間を減らすのではなく、増やすべきではと思います。

〈中〉教科書が薄くなった分、塾の勉強や市販のドリルが必要になり、お金がかかってしまいます。

〈中〉上を目指したい自分は内容が薄いと嫌なので、「ゆとり教育」に反対。遊びたい自分は休みが多い方がいいので賛成。

〈中〉総合的な学習では自分で調べることが一人ひとりを大きく伸ばしていくと思います。だから、この変化がすべて学力低下につながっているわけではない。それよりもやる気が問題だと思います。少人数学級を採り入れたほうが良いと思います。

〈中〉携帯やゲーム、パソコンが普及しているから、つまらない勉強よりも楽しいものに集中してしまう。勉強、勉強と無理やり頭に押し込めると、頭がパンパンになり、荒れた日本になると思う。

〈高〉先生にも問題がある。授業を淡々と進めるだけの人、授業スピードが速すぎる人、関係ないことばかり話す人。

競争ばかりじゃ親友できない

競争して学力上がる？

〈中〉競わせて勉強させると、どうして勉強するのかわからない限り、またすぐに学力は低下していくと思います。勉強が好き、楽しいということが大切なんだと思います。

〈中〉学校で競争ばかりしていると、心が通じ合う親友ができないと思う。僕はそこまでして学力を高めたくない。

〈高〉切磋琢磨(せつさたくま)の精神は自ら向上したいと思うからこそ力になると思う。強制させられたら、ただの苦痛でしかない。だったら、そう思う人たちだけでやればいいと思う。

多少厳しくなってもいいかな

大人にひとこと

〈小〉コロコロかえないでほしい。復習などをもっとやるだけでよいと思う。

〈中〉大人も見本として恥ずかしくない行動をとってほしい。税金を払わなかったり、汚職事件をおこしたりしないで子供と大人が協力してより良い日本をつかっていけるなら、多少教育が厳しくなってもいいかなと思う。

〈高〉なぜ世界のトップを目指さなければいけないのか。学力のほかにも世界一にならなければいけないことはいっぱいあると思う。例えば自殺の数や電気使用量が最低など。子どもたちを学力争いに巻き込まないでほしい。

〈高〉なぜ他国と比べられなくてはならないのか？日本は日本らしく個人の特技をぐんと伸ばして、そして成り立つ。そんな社会じゃだめなのか？

〈高〉2学期制にしたり、休みを減らしてみたり、ゆとり教育を今になって取りやめようかと悩んでみたり、日本の教育はまだリソウに届かない実験段階です。どんどんやってみても別にいいと思います。でも、リソウ通りの教育に行きつく前に日本の教育現場が再起不能にならないよう祈ります。

「なぜ学ぶの」複眼的な問い

子どもの学力低下を問題視しているのは大人たち。肝心の子どもはどう受け止めているのか。先生たちに尋ねると、「政策の是非は子どもにはわからないだろう」「勉強をせずにすむのがいいと答えるのでは」との見方が多かった。だが、実際に書いてもらうと「授業時間を増やすのが真のゆとり」「公私間格差が問題」など多様な意見が集まった。

複眼的な主張が目立つ。「上を目指したい自分はゆとり教育に反対。遊びたい自分は賛成」「大人と協力して良い日本をつくれるなら厳しくなってもいい」……。学ぶ意味を問う子が多い。競争を促すだけでは答えにならないことがわかる。

子どもたちは「ゆとり教育」と見直しの動きを身をもって体験している。改革を進めようとするなら、この当事者の声を聞かない手はない。

全日本私塾教育ネットワーク 「全国塾長・職員研修大会」 新しい教育のかたち 『人を創る・学校を創る』

研修部長 田中 宏道

今回の全国研修会では、学習塾の原点に戻り、教育の有り方・人の育て方に焦点を当て、全国各エリアで活躍している会員塾のノウハウを大公開いたします。特に中部エリアからは、富山県に今春片山学園中学校を開校された「富山育英センター」代表片山浄見先生に開校直後のご様子もお話いただきます。そして「人を創る」という視点からモチベーションアップに焦点を当て、異業種からも講師をお招きしました。全国焼肉チェーン「牛角」で全国スタッフのモチベーションアップに奔走し、現在では社員・スタッフの「やる気創造」に活躍されるコンサルタント会社「サードステージカンパニー」代表・森憲一先生です。学習塾のみならず、私学の先生はもちろん教育に携わる方々には是非お勧めの研修です。

<日時> 平成17年4月24日(日曜日)

第一部 研修会 午後1時00分～午後5時40分

第二部 懇親会 午後6時00分～午後8時30分

熱気あふれる第一部に引き続き、第二部では食事をしながらさまざまな意見交換・情報交換をしてください。

<会場>

第一部 BIZ新宿(新宿区立産業会館) 3F 研修室A

第二部 スカイレストラン シャーウッド 新宿住友ビル(三角ビル) 51F

研修会

プロローグ 13:00pm～13:40pm

『私塾ネット各エリア 元気塾ノウハウ公開!』

各エリアから、7分ミニ講演

エピソード 13:40pm～14:30pm

私塾ネット中部エリア 『塾が創る「夢の学校」』

(学)片山学園理事長・富山育英センター代表 片山 浄見

一人ひとりの人間性を育む「全人教育」

「自然豊かな環境」を活かした教育

エピソード 15:00pm～16:20pm

『人を創る モチベーションアップ・感動創造』

(有)サードステージカンパニー代表 森 憲一

感動創造で人財を創る!

スタッフ自ら経営者として考え行動する仕組みをつくる!!

1400名の前で感動大賞を発表!毎日の仕事で感動を生む!!

エピローグ 16:35pm～17:30pm

テーブル座談会 『ノウハウ・感動を交換』

上記講演6テーマに分かれてのテーブル座談会です。

お好きなテーブルをまわって意見交換・情報交換してください。

講演者略歴(敬称略)

片山 浄見(かたやま じょうけん)

株式会社富山育英センター代表取締役 学校法人片山学園理事長

1949年生まれ。

片山先生より 「片山学園中学校私が塾を開いたのは、1人の不登校の子供さんとの出会いがきっかけでした。今から30年も前のことです。3年間の指導の後、今は立派な社会人として活躍しています。私は彼との出会いから多くの事を学びました。それは人は誰でも素晴らしい才能を持っている、その才能を引き出すことこそ教育であると。その後塾の生徒は増えましたが1人ひとりの子供の顔を思い浮かべ、彼らの息づかいを感じながら指導してきました。しかし塾での指導には限界があり、毎日朝から晩まで面倒を見るわけにはいきませんし、生活面の指導もできません。もっと子供達の指導をしたい。その思いにかられている時、ハッと思いました。そうだ学校を創ろう!そしたら全ての問題が解決する、そして準備に取りかかりました。今か

ら15年も前のことでした。実際にやってみると学校を創造するという事は、想像以上に難しく、苦難の連続でした。途中であきらめようと思ったことも一度や二度ではありませんでした。しかし多くの方々のご厚情と関係各位のご協力により、ようやく実現の運びとなりました。本当に嬉しい思いで一杯です。

この学校は"塾のこころ"で創る学校です。塾は子供達の知的好奇心を満たし、勉強することの楽しさを教える所です。その意味で"塾のこころ"を大切にしたい教育を施すつもりです。

この学校を卒業した生徒がいつか日本で、そして世界でのリーダーシップを取り、立派に活躍できることを願ってやみません。」

<株富山育英センター>

〒930-0005 富山市新桜町6-22 TEL:076-441-8006(代) E-MAIL:kyouiku@ic-ikuei.co.jp

資本金1億円 社員182名(男108名/女74名) 塾生数 約7,500人

事業所 富山県(25校)、石川県(7校)、福井県(2校)

売上高25億円(平成16年3月末実績)

<学校法人 片山学園 片山学園中学校> TEL:076-441-0208 E-MAIL:info@katayamagakuen.jp

〒930-0005 富山県上新川郡大山町東黒牧

森 憲一(もり けんいち)

(有)サードステージカンパニー代表 ・ 元「牛角」(株)レイنز

1972年生まれ。日大芸術学部映画学科卒業

在学中より、自らも役者として活動しながら、映画、演劇の「演出」「キャスティング(配役)」、「演技指導」を徹底的に学ぶ。卒業後、仕事をしながら「心理トレーナー」の専門家に師事し、心理学、精神医学、心理療法、自己開発トレーニングを学ぶ。アパレル業界において、自らも営業、販売、店長職をしながら販売社員、パートの接客指導、育成に努め、百貨店での販売実績において、育成した販売員を一日80万以上の売り上げを達成させる人材に育てる。店舗においては月間の売り上げ平均が400万不足だった駅ビルにおいて、800万という売り上げ数値を達成させる販売員を育成する。テレマーケティング業界に転身後、立ち上げから3ヶ月で一人平均一日30件アポイントを取るパートさんを育成する。

大手外食チェーン「牛角」を運営する「(株)レイنز」に転身。不採算店舗の再建に従事。300万円の赤字を抱え、閉店直前だった店舗を自ら志望。半年で売り上げ700万、利益150万円の店舗に改革する。社員は店長ただ一人。後はすべてアルバイトという環境の中で、アルバイト自らが経営者として考え、行動する仕組みを構築する。社員は労働基準法通りに休日を取りながら、それでもアルバイトが店舗の数値管理から接客、お客さまの感動満足までを責任と誇りを持って演出できる体制を創りあげる。アルバイト自らが、店の売上利益をリアルタイムで認識し、店の存続とお客さま感動満足の為に、販促活動やリピート率アップについて企画し、行動する。そのような店舗を創った。その後、店舗再建に留まらず、会社全体、FCを含めたチェーン全体の、社員、アルバイトのモチベーションアップの為に仕組みを構築する。

独立起業後は、企業のモチベーションアップの為に、経営者とのコンサルティング、カウンセリング、コーチングだけでなく、マネージャー、一般社員、パート・アルバイトの教育、研修。全社の仕組み創り。そして、モチベーションアップの為にツールの制作(社内コミュニケーションツール)、コンベンションの企画・演出・運営、VTRの制作、セミナーや勉強会の開催と、多岐にわたるコンテンツやノウハウを提供している。

現在、有限会社サードステージカンパニー代表取締役、ポータルサイト30's Style (<http://www.30style.jp/>) CEO を兼務。将来の夢は精神医学博士として、大学で教鞭をとりながら、青少年の「夢」を応援していくこと。

<研修部からのお願い>

年に1度の全国研修会です。センター研修部&関東エリアとしては、全国の皆様にせつかく東京に来ていただくのだから、懇親会だけではなく、本業の姿を見せ合って刺激を受けたり、日本で躍進中の異業種から経営とは何かを学ぶ機会を設けたり、また、東京らしさを少しでも感じていただこうと思い新宿高層ビルに懇親会を企画してみました。

(その後も東京らしい企画色々有り?????)

首をながくして待っておりますので、スタッフの方も引き連れてぜひぜひお越しくださいませ~い。

元気に、そして、為になること間違いなしのオススメ企画です!!

声の教育社による入試分析

現在の首都圏高校入試を眺めて

ここ数年首都圏の高校入試が大きな変化を見せています。今後この傾向が全国に波及することが予想されます。そこで、声の教育社さんに当号のために分析レポートをお願いしました。(広報部)

現在、首都圏でも少子化により受験生が年々減少しています。公立中学校卒業生数は、平成17年3月現在の予定で、東京都73,536人(前年77,406人:5%減)、千葉県51562人(前年54953人:6%減)、埼玉県62951人(前年68225人:8%減)、神奈川県63,987人(前年67,958人:6%減)と、いずれも前の年を下回っています。

それに呼応する形で、**高校募集定員も年々削減していく傾向**にあります。そして、入学者の質と量の適正なバランスをとるための工夫として、各私立高校や各都県教育委員会は入試制度の度重なる改革を行ってきました。

最近のこうした不況・少子化や入試制度の改革に伴い、首都圏の高校受験の状況は、ある方向・傾向へと変化しています。

その傾向とは、「**私立高校の出願者数が大幅に減少したこと**」に他なりません。では、どこにその要因があるのか、以下に分析していきたいと思えます。

まず、東京都をはじめ、千葉県、埼玉県、神奈川県など首都圏の公立高校が、従来校長の推薦が必要だった推薦入試(埼玉県・神奈川県は前期入試、千葉県は特色化選抜。以下総じて「推薦」)を、誰でも容易に受けられるものにしたため、公立高推薦での出願者数が増加したこと、が挙げられます。**だれでも好きな高校を受検できるという自己推薦型の入試で、万が一推薦で不合格となっても、再度、一般入試に出願できる、つまり、公立高校の受検機会が増えたことで、公立高校志向が強まったのです。**そのため、私立高校との併願パターンが減った(併願しにくくなった、あるいは、併願をしなくてもすむようになった)ことなども見逃せません。

次に、千葉県を除く東京都・埼玉県・神奈川県で**通学区域が撤廃され**、各都県内、原則どんな地域からでも受検が可能になったことも、近年の公立高校の大きな改革と言ってよいでしょう。

もちろん、推薦制度の導入や通学区域の撤廃だけで公立高校に受験生の目が向いている、ということはありません。公立高校において大学進学実績が伸びたり、個性化重視の学校改革が浸透したりした結

果、公立人気に復活の兆しが見られ始めたと考えられます。優秀な生徒を集めるために、東京都(一般人試)、神奈川県(後期入試)、埼玉県、千葉県(特色化選抜)で、**自校作成問題(独自問題)**を導入したりしています。日比谷高・西高など都立の名門が東大をはじめ大学合格実績を順調に伸ばし、今後ますます人気に拍車がかかる可能性もあります。

これに対して、私立高校はどういった動きを見せているのでしょうか。

東京都・千葉県・神奈川県では、**併願可能な推薦**を多く取り入れています。東京都は、併願可能な推薦の対象を、「埼玉県生」から「隣接県生」に拡大していますし、千葉県でも、実施日程を単日から2日にするなど、受験機会自体を拡大しています。神奈川県には、公立の前期試験とのみ併願可能な推薦Hという制度があります。埼玉県では公立高校の改革にあわせて、前期・後期入試制度を採用しました。

最後に、今後、高校入試はいったいどうなっていくか、考えたいと思えます。

まず、私立高校は、一般入試では生徒が獲得できないため、**ますますA推薦・B推薦などの入試に重きを置くようになる**ことが考えられます。事実、埼玉などでは、6校を除き、ほとんどの高校が前期に試験を行います。一方で、一般入試にも確約(内申などの出願条件・打診基準を満たしていればまず不合格になることはない)を設けることで生徒を逃がさないようにしようとしています。このスタイルは、神奈川県でも多く見られます。

私立高校は「特典」のつけ方で人気が左右されると思われれます。例えば、併願システムや学費延納措置をフレキシブルにする、受験機会を多く設ける、複数回の場合受験料を持ち越す、入学後のアドバンテージ(特待生制度など)を設けるなど、工夫はさまざまです。

これらのミクロな要素を、マクロな入試制度にどう結びつけるかに、私立高校のこれからがかかっているでしょう。

文責：声の教育社 受験案内担当 竹野



私塾ネット関東石田先生投稿記事

平和への願望 石田治正（私塾ネット名誉会



員)

私は昨年12月中旬大腸手術のため数日入院したときに書いた文章を公開します。

今から60年前、広島に史上初の一発の原子爆弾が三方を山で囲まれたデルタの中央の上空600メートルで炸裂しました。火球温度は約百万度を超え、数十万気圧の圧力が衝撃波として広がり、大量の放射線が飛び散ったそうです。そして、30分後に「死の灰」を含んだ黒い雨が北西部にかけて広範囲に降り注ぎました。原爆の威力と悲惨さは想像を絶して、死者は1945年末までに14万人とされています。現在、広島原爆の威力をしのぐ核兵器は世界に3万発を超えているそうです。

広島市内に原爆で一瞬にして大破し、全焼した当時の産業奨励館の残骸を遺跡として残すことになり、保存工事を実施し、そして「原爆ドーム」として世界遺産に登録されました。これは永久に平和のシンボルとなります。現在、わが国の繁栄はこのような戦争で失われた多数の生命で成り立っています。ですから、私は被爆者の一人としていつも平和への願いが強くこみ上げてきます。今、世界ではイラク、中東、アフリカなどで紛争があり、国民の中で私たち教育者は特に平和への重要性を再確認し、この貴重な教を生かさなければなりません。「平和」は人類の最高の名句であると信じています。どうか諸先生のご理解とご協力を切望します。

原爆が日本に投下されてから、今年で60年の節目になります。私は一昨年私立本郷高校、区立立石中学校で原爆の語り部をやり、今年目は黒区八雲学園、3月には区立東金町中学校で講演をしまし

た。被爆者も平均年齢が70歳を越えて高齢化が進み、介護を受ける人々も多くなってきました。今年こそ、組織をあげてご協力くださいますよう、お願いいたします。

2005年3月25日発行「東都よみうり」より

実体験で伝える原爆の恐ろしさ

小中学校を訪れ60年前の記憶を語る

2005年2月25日、葛飾区立北野小学校（同区柴又3丁目、加藤明紀夫校長、児童480人）を近くに住む被爆者の石田治正さん（76）が訪れ、六年生たちに原爆投下直後の広島の様子を語った。

石田さんは、葛飾区在住の被爆者による「葛友会」（147人）の会員で、3年前から学校を訪れて被爆体験を語っている。60年前の1945年（昭和20年）8月6日に原子爆弾が落とされた時は、広島県廿日市町（現・廿日市市）にいた。当時すでに病気で両親を失っていた16歳の石田さんは、疎開先から一時帰郷していた弟を連れて避難所の小学校に向かいながら、凄惨（せいさん）な光景を目撃した。戦後の混乱のなかで49年に墨田区吾嬬町西9丁目（現在の同区八広）に移り住み、その後46年間、柴又で学習塾を経営してきた。

子どもたちにとっては教科書でしか知らない原爆の恐ろしさを理解してもらいたいと、体験談を語る時には資料や小物を持参する。この日も、ガーゼを腕から垂らして熱線を浴びて傷んだ皮膚の状態を示したり、真夏に大量の死者を出した市内の混乱ぶりを具体的なエピソードを交えて語った。子どもたちは、川一面に浮いた死体や瀕死（ひんし）の負傷者を奈毘（だび）に付す様子など、生々しい情景に恩を詰めて聞き入り、衝撃の拳謀り泣き出す子もいた。福田絵理さん（12）は「たった一発なのに、爆風で人が飛ばされたり、大勢の人の皮膚がただれたりするなんてこわいと思いました」と話していた。

葛飾区の小中学校では、総合学習の時間などで被爆体験者による講話を行っている。戦後60年を迎え、同区内に住む被爆者も60歳から91歳と高齢化が著しい。体験談を語れる人材が減っていくなかで、地図や記録資料を載せたテキストを用意し、日記をもとに当時の詳細な状況を伝える石田さんの存在は貴重だ。

石田さんは3月14日には東金町中学校（同区東金町5丁目）を訪れた。



私塾ネット四国 代表 湯口 兼司

3月3日 役員、代表者会 (ホテルクレメント徳島) 12名参加

年間計画及び研修会などについて討議し、その後近藤先生(文化の森スクール)が新しく開校する代ゼミサテライン徳島校をみんなで見学いたしました。四国には無いタイプのモダンかつ大変落ち着いた雰囲気をもった校舎に感動いたしました。

1、6月5日に予定していた総会、研修会を5月29日に変更し、啓真館(原田真一代表)が新しく作られた志度研修場(seed)にて開催いたします。

2、秋の研修会は11月13日中国エリア開催の研修会にジョイントさせていただくことで決定いたしました。

3、私塾ネット四国通信『若葉の集い』(仮称)を創り会員より投稿して貰い必要に応じ、各塾で利用する。

4、坂出ゼミナール、函子知久先生を私塾ネット四国の名誉会員とし今後も交流をする。

5月29日(日) 私塾ネット四国総会および研修会

受付開始 AM 10:30

開 会 AM 11:00

場 所 啓真館志度研修場(seed)

香川県さぬき市志度苦張

(徒歩10秒で瀬戸内海の浜にでます。)

午前中、総会、午後、研修会、夕方、夜懇親会を予定しています。

宿泊も出来ますのでゆっくりと瀬戸内海魚をつまみに語り合しましょう。

研修内容 会員各塾の持っている問題点、これから目指す自塾の方向性などについてお互いに意見を交換し、率直に語り合おうと考えています。参加塾にはあらかじめアンケートをとります。

高松空港から約45分で着きます。四国以外の会員の方の参加大歓迎です! 迎へにも参りますし、詳しい案内をお送りいたしますので、ぜひ御連絡ください。

連絡先(0875-72-3262)

携帯電話(090-7147-8271)

私塾ネット東北 代表 畑山 篤

2005年度事業計画

「私塾ネット東北のメッセージをしっかりと東北エリアの学習塾の皆様へ伝える」という活動目標に向けて、昨年に引き続きまして『第2回教育進学情報交換会』を計画いたしております。その他 教務・経営の研修 親睦交流なども行っていきたいと思います。

私塾ネット中部 代表 松本 紀行

陽光の中、山々の雪もだいぶ消え、春のいづきが感じられる信濃路でございます。日々の細かい忙しさにかまけて、あれよあれよという間に4月に入ってしまった。

昨日、関東エリア代表の鈴木先生からお電話を頂戴致しました。

6月12日(日)に関東地区の研修会を予定しているが、霧ヶ峰の小舎を会場として使わせてほしいとの内容でした。もちろん、こんな片田舎まで関係の皆さんに来て頂けるのは大変ありがたいことです。会場と呼べる程、立派な施設ではないので、逆に恐縮しております。ただ、信濃の高原を散策してみようかという気持ちも鈴木先生の言葉の裏にあるかと勝手に推測しまして、使って頂くことを了承しました。その際に、「中部地区の皆さんもご一緒したら?」とのおすすすめもありましたので、検討させて頂いて居ります。その折には、皆様よろしくお願い致します。

最後に、紅葉の時期には中部地区で湯けむりの会」の仲間と懇親会が出来ればいいなあと思っています。あるいは、片山先生の学校見学が出来ればと考えております。

私塾ネット中国 代表 北川 健治

平成17年度 私塾ネット中国行事予定

5月12日(木) 定例会(広島)

7月14日(木) 定例会(福山)

9月14日(木) 定例会(広島)

11月13日(日)、14日(月)

私塾ネット中国・四国エリア合同塾長研修会

1月12日(木) 定例会(広島)

3月9日(木) 定例会(広島)



私塾ネット関東 代表 鈴木 正之

平成17年度 私塾ネット関東行事予定
 4月24日(日) 通常会員総会
 5月11日(水) 第1回教務部国語科研修
 6月 第2回教務部国語科研修
 6月12日(日)、13日(月) 私塾ネット関東・中部エリア合同宿泊研修(チャレンジ村)
 7月12日(火) 定例会, 第3回教務部国語科研修, 定例研修
 9月13日(火) 定例会, 第4回教務部国語科研修, 定例研修
 10月23日(日) 定例会, 私学情報交換会
 11月8日(火) 定例会, 定例研修
 12月13日(火) 定例会, 定例研修
 1月29日(日) 定例会, 新年会
 2月14日(火) 役員会
 3月14日(火) 定例会, 会員塾情報交換会
 その他、教務部国語科研修を数回開催予定

平成16年度 私塾ネット関東事業計画

1. 事務局総務
 通常会員総会の召集と実施
 4月に通常会員総会を開催する。
 定例会の招集と実施
 行事予定に基づき定例会を開催する。
 役員会・総会準備委員会の招集と実施
 4月に総会準備委員会を開催。2月に役員会を開催する。必要に応じ臨時役員会を開催する。又、役員会はネット上でとり行うこともできる。
 新規会員の募集活動
 幅広く新規会員の獲得に努める。
 賛助会員の募集
 私学・企業を対象とする賛助会員募集を行う。
 U-40の活動の企画、運営
 若い塾長及び職員の自由な発想を支援し、U-40研修会を開催する。
 会員の在籍管理
 会員の入退会の事務処理と会員名簿の作成管理を行う。
 宿泊研修の開催
 研修部と連携し、宿泊研修を開催する。

2. 会計部
 会費の請求、徴収と事業収支の管理を行う。
 会費の徴収方法の検討と整備を実施する。
 予算案の作成と管理を行う。

3. 広報部
 研修会等の活動を収集、記録し、代表に提出する。
 センター広報誌編集委員として広報誌の作成、発行にあたる。
 センター広報部と連携し、パソコン教育推進協

会、進路指導研究会の協力を得て、ML網の整備とコンテンツの充実を目指す。
 進学情報部からの教育関係の情報、支部からの地域教育情報ほ収集し、会員へホームページをを中心に発信する。

4. 研修部

9月と12月の定例研修を企画運営する。
 事務局に協力し、U-40、宿泊研修を開催する。
 支部に協力し、研修会、新年会を開催する。
 教務部に協力し、研修会を開催する。
 進学情報部に協力し「私学情報交換会・懇親会」の開催を支援する。
 その他、活動時期に応じたテーマ研修会を臨時開催する。

5. 渉外・厚生部

学習塾諸団体との協調と協力関係を築く。
 教育関連研究団体と連携する。
 全国教育ボランティアの会、パソコン教育推進協会、進路指導研究会との協力関係を進める。
 全国学習塾連絡会議に参加、協力する。

6. 進学情報部

私学の説明会等からの情報を収集、記録し、関東広報部へ記録を発信する。
 入試相談会を協賛し実行委員を派遣する。
 10月に「私学情報交換会・懇親会」を主催する。
 私学賛助会員を募集する。

7. 教務部

英語、数学、国語の各教科主任を教務部内を置き、各教科の特性に応じ、教材と指導に関する研修会等を研修部と連動し企画運営する。
 理科、社会の各教科の教材と指導に関する研修会等を研修部と連動し企画運営する。

8. 支部

東京、神奈川、埼玉、東関東(千葉、茨城)、北関東(群馬、栃木)にそれぞれ支部を置き、地域に即した研修会等を研修部と連動し企画運営する。
 各支部は、地域の教育行政の窓口となり私塾ネットの活動に即した対応をとる。
 各支部は、地域の教育情報を収集、記録し、関東広報部へ記録を発信する。

各 部 報 告

私塾ネットセンター事業報告

- 私塾ネットセンター 第5回代表者会議**
 日時：平成16年4月25日 12:30~
 会場：きゅりあん（品川区東大井町）
 出席：本人出席13名 委任状出席 4名
- 私塾ネット全国塾長職員研修大会**
 日時：平成16年4月25日 13:30~
 会場：きゅりあん（品川区東大井町）
 出席：118名
- 私塾ネットセンター 執行部会**
 日時：平成16年5月10日 10:00~
 会場：東京駅八重洲倶楽部
 出席：6名
- 私塾ネット 広報委員会**
 日時：平成16年5月25日 10:00~
 会場：青雲塾（平林治先生塾舎）
 出席：6名
- 私塾ネットセンター 役員会**
 日時：平成16年6月7日 10:00~
 会場：きゅりあん（品川区東大井町）
 出席：16名
- 私塾ネット四国 総会及び研修会**
 日時：平成16年6月13日 11:00~16:00
 会場：徳島県 阿波池田簡易保険保養センター
 出席：35名
- 私塾ネット U-40**
 日時：平成16年7月4日 16:00~
 会場：いぶき学院（鈴木正之先生塾舎）
 出席：21名
- 私塾ネット 執行部会**
 日時：平成16年9月28日
 会場：新宿ルノアール
 出席：4名
- 私塾ネット 私学情報交換会**
 日時：平成16年10月24日 16:00~
 会場：かんぼヘルスセンター（池袋）
- 私塾ネット広報 編集会議**
 日時：平成16年11月11日
 会場：AIM学習セミナー（谷村志厚先生塾舎）
- 私塾ネット 広報委員会**
 日時：平成16年12月2日
 会場：青雲塾
 出席：5名
- 私塾ネットセンター 第6回代表者会議**
 日時：平成16年12月5日
 会場：第一イン池袋
 出席：本人出席10名 委任状出席 7名

塾団体合同忘年会

- 日時：平成16年12月5日
 会場：ホテルメトロポリタン（池袋）
塾に役立つ情報展（私塾ネット協賛）
 日時：平成17年1月16日 11:00~
 会場：新宿NSビル
塾団体合同新年会（私塾ネット協賛）
 日時：平成17年1月16日 17:00~
 会場：新宿ワシントンホテル

研修部 国語科 加藤 実

国語科研修開催にあたり

国語科を毎週指導している塾自体少ないのは誠に残念なわけです。「外国語」より「母国語」をまず教えなければいけないと考えてます。「英語」は決して「国際語」ではなく、ただ経済的・文化的力が強く、英語を無視するわけにはいかないというだけのことです。それに生徒全員に英語を学ばせる必要があるのかということも議論すべきであると思っています。英語で苦しんでいる生徒がどれだけいるのかという問題を無視して欲しくない。そしてまたどれだけ必要とされているのか、使う機会がどれほどあるのか、それも十分検討してみる必要があるかと思えます。「日本語」を学ぶ外国人もだいが増えてきています。そういう点でいえば、「日本語」も「国際語」の資格十分なわけです。言語というものはあくまでも経済と文化の力関係なわけです。「口語文法」は「国語」の基本体系なわけですから、義務教育でしっかり学んでおくべき事項であると考えます。日常生活を不便なく過ごせればよいというレベルではあまりにも寂しい。中学3年間もあるのです。週1回15分程度でも十分なわけです。「文語文法」は基本的には高等学校で学ぶもので、これはほとんどの場合、「解釈文法」なわけです。活用語の終止形が分からなければ辞書も引けず、意味がわからない。つまり予習が出来ないということになるわけで、これは避けたい。古文を現代文にするための「てがかり」といった性格のものです。

第一回の日時場所のご案内

日時：5月11日（水） 午前10時~12時
 会場：ほくとびあ（北区王子）

今後の研修予定

皆さんの反応次第ということもあります。模擬授業形式ということですから、成果を確認しながら進めていくわけです。予定としては全10回10時間程度を考えています。「何を」はとりあえず「文語文法の基礎、その指導法」です。開催は基本的には関東の定例会前1時間を予定しております。5月、6月は単独開催で、7月、9月は定例会時の予定です。

渉外部**渉外部次長 加藤 実**

今回は主に平成17年3月14日に行われました第71回「拡大任意団体連絡会」を中心にご報告申し上げます。ただスペースの関係で「題目」だけになり、中身を紹介できないのが誠に残念ではあります。

【日 時】平成17年3月14日 12時20分～14時30分

【会 場】衆議院第二議員会館 第四会議室

【議 題】以下の(1)～(4)

(1) 司会進行 佐藤勇治先生(NPO全国教育ボランティアの会事務局長)

開会のご挨拶 私塾ネット理事長谷村志厚先生

出席者自己紹介

来賓4名、私塾関係24名、企業関係3名の合計31名の自己紹介があった(スペースの関係でお名前を紹介できないのが残念)。

平成17年度『私塾・私学・企業・教育ネット要覧』第5集の進行状況と今後の予定

『私塾ネット要覧』編集長佐藤勇治先生

(2)

来賓ご挨拶

経済産業省サービス産業課課長橋本正洋氏

講師 個人情報保護法 経済産業省サービス産業課大臣官房企画官山本勝紀氏

(3) 司会進行

松田邦道先生(学校教育支援調査会幹事長)

これからの教育行政の行方

教育基本法について

講師 文部科学省主任教育改革官・大臣官房企画官白間竜一郎氏

新学習指導要領について

講師 文部科学省初等中等局教育課程課教育課程企画室長補佐井上卓巳氏

特別企画「学力低下と理数教育の崩壊」

講師 英進館(福岡)館長筒井勝美氏

(これはぜひ詳細報告をしたいので、別の機会にやりたい)

(4) 閉会のご挨拶

社団法人全国学習塾協会専務理事稲葉秀雄先生

任意団体連絡会から「全日本学習塾連絡会議」に名称変更された。その第1回世話人会が4月1日に社団法人全国学習塾協会事務所で開催された。世話人は以下の7名。

稲葉秀雄・岡田保雄・菅原明之・谷村志厚・玉城邦夫・松田邦道・佐藤勇治。

初代世話人代表に稲葉秀雄氏が就任。五十音順1年交代の輪番制とする。次年度世話人代表は岡田保雄氏。事務局長には佐藤勇治氏が就任。当面事務局を

『教育ネット要覧』編集部(調布学園)に置く。

「全日本学習塾連絡会議」は学習塾団体ではなく、学習塾団体の連絡機関である。主な業務は以下の2点。

各学習塾団体の年間行事情報の収集と情報の発信。

『私塾・私学・企業・教育ネット要覧』の編集・発行・配布。

次回は7月上旬に開催予定。以上、ご報告申し上げます。平成17年4月4日午後10時56

会計部長 石川 維雪**17年度センター会費ご協力をお願い**

先にもご案内申し上げましたが、昨年度より会費の納入方法が変更されています。以下内容ご確認願ひまして、ご協力のほど、よろしく願ひ申し上げます。なお、センター会費は12,000円(年額)でございます。

エリア東北(青森県)、エリア関東、エリア中国、エリア四国

各エリアごとに、センターの会費を集めさせていただきます。なお、同時にエリアの会費を集める場合もございます。詳細は、エリア代表ないしはエリア会計担当者にお問い合わせください。

*エリア代表者

エリア東北 畑山篤(志学塾) エリア関東 鈴木正之(いぶき学院) エリア中国 北川健治(栄光プレップ)

エリア四国 湯口兼司(湯口塾)

エリア北海道、エリア東北(青森以外)、エリア中部、エリア近畿、エリア九州

センター会計部より直接会費を集めさせていただきます。4月はじめに17年会費についてのご案内を個別にお届けしておりますので、ご確認ください。なお、まだご送金いただけていない方は、以下のいずれかの口座へ12,000円ほどご送金くださいますよう、願ひ申し上げます。

詳細やご不明な点は、センター会計部 石川維雪(03-3483-8221:さくら記帳代行センター内)までお問い合わせください。

【郵便振替でご送金の場合】以下の郵便口座までご送金ください。

(口座番号) 0230-6-0068820

(口座名義) 全日本私塾教育ネットワーク

【銀行振込でご送金の場合】

以下の銀行口座までご送金ください。

みずほ銀行 祖師谷(そしがや)支店

普通預金 8079372

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校 03-3376-2244
 〒151-0071 東京都渋谷区本町3-2-2
 村山 ヲドラ先生
江戸川学園取手中学高等学校 0297-74-8771
 〒302-0025 茨城県取手市西1-37-1
 竹澤 賢司先生
十文字中学高等学校 03-3918-0511
 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-10-33
 卯木 幸男先生
東洋高等学校 03-3291-3824
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-16
 齋藤 元治先生
洗足学園大学付属第一高等学校
 03-3711-5751
 〒152-0012 東京都目黒区洗足1-15-13
 佐藤 慶一先生
桜丘中学高等学校 03-3910-6161
 〒114-8554 東京都北区滝野川1-51-12
 品田 健先生
聖徳大学附属中高等学校 047-392-8111
 〒270-2223 千葉県松戸市秋山600
 川並 芳純先生
麹町学園女子中高等学校 03-3263-3014
 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-8
 伊藤 暁先生
春日部共栄中学 048-737-7611
 〒334-0037 埼玉県春日部市上大増新田213
 宇野 禎弘先生
大成高等学校 0422-43-3196
 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-7-5
 森 保先生
東京学園高等学校 03-3711-6641
 〒153-0064 東京都目黒区下目黒6-12-25
 須藤 勉先生
東京立正中学高等学校 03-3312-1111
 〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-41-15
 藤井 教戒先生
八雲学園中学高等学校 03-3717-1196
 〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-14-1
 横山 孝治先生
関東第一高等学校 03-3653-1541
 〒132-0031 東京都江戸川区松島2-10-11
 副田 康孝先生
武蔵野中高等学校 03-3910-0151
 〒114-0024 東京都北区西ヶ原4-56-20
 海老沢 照明先生
神田学園中高等学校 03-3291-2447
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-3-6
 梅津 久昭先生
和洋国府台女子中学高等学校 047-371-1120
 〒272-0834 千葉県市川市国分4-20-1
 太田 陽太郎先生

東京文化中学高等学校 03-3381-0196
 〒164-8638 東京都中野区本町6-38-1
 上前 善勝先生
広島加計学園 084-941-4115
 〒721-8502 広島県福山市引野町980-1
 和田 淳先生
文京学院大学女子中学高等学校 03-3946-5301
 〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
 大久保 幸夫先生
京北学園 03-3941-6253
 〒112-8607 東京都文京区白山5-28-25
 実方 隆志先生
大森学園高等学校 03-3762-7336
 〒143-0015 東京都大田区大森3-2-12
 河嶋 正先生
株式会社パイロットコーポレーション
 03-3538-3782
 〒104-8304 東京都中央区京橋2-6-21
 辻 豊様
株式会社教育企画ティーファイブ
 03-5479-7061
 〒140-0001 東京都品川区北品川1-22-17
 ニックハイム104号
 山田 孝幸様

編集後記

広報9号はいかがでしたか。私が編集長に任ぜられてから早4号目になりました。大分慣れてきましたが、途中からワードではなくパブリッシャーにソフトを変更いたしました。ワードは大抵のコンピュータにインストールされていますがパブリッシャーは別にソフトを買わないと使えません。泣く泣く無いお金をはたいて購入しインストールして使い始めましたが、多少ワードとは使い勝手は違うもののこれが又優れたもの、こういうものの編集にはもってこいのソフトです。写真や絵の挿入、テキストボックスの使い方、何をとっても名前のごとく編集者です。ワードではテキストボックスが動いてしまって画面が無茶苦茶になってしまったことが多々ありましたがこれでは全くありません。便利なソフトです。塾で父母向けの新聞をこれでお作りになってはいかがですか。 平成17年4月 編集長 平林 治

全日本私塾教育ネットワーク

本部事務局
 〒173-0005 東京都板橋区仲宿29-6
 ナカジユク内
 TEL 03-3963-5572 FAX 03-3963-2529
 Mail Address: jimukyoku@shijuku.net

理事長 谷村 志厚
 〒270-2231 千葉県松戸市総台63-21
 A I M学習セミナー内
 TEL 047-368-2729 FAX 047-368-2189

私塾ネット広報編集委員会
 〒120-0032 東京都足立区千住柳町14-12
 青雲塾内
 TEL 03-3881-2240 FAX 03-5284-3444